

いずれかの方法により、お申し込みください。

応募期間	随時
応募方法	①FAX：この申込書にご記入の上、082-222-5521 までFAXしてください。 ②Eメール：下記の項目を記載の上、syokaikaku@pref.hiroshima.lg.jp 宛に送付してください。

応募者

お名前	(おなまえ) ()
企業名	
役職名	

企業等の概要

所在地	〒		
電話		F A X	
業種 (該当するものに○をつけてください)	1 農業、林業 4 建設業 7 情報通信業 10 金融業、保険業 12 学術研究、専門・技術サービス業 14 生活関連サービス業、娯楽業 16 医療、福祉 18 サービス業(他に分類されないもの)	2 漁業 5 製造業 8 運輸業、郵便業 11 不動産業、物品賃貸業 13 宿泊業、飲食サービス業 15 教育、学習支援業 17 複合サービス事業 19 分類不能の産業	3 鉱業、採石業、砂利採取業 6 電気・ガス・熱供給・水道業 9 卸売業、小売業 11 不動産業、物品賃貸業 13 宿泊業、飲食サービス業 15 教育、学習支援業 17 複合サービス事業 19 分類不能の産業
事業概要			
規模	常時雇用する労働者数 人(うち男性 人、女性 人)		

担当者(ホームページ等には掲載しません。)

所 属	
職 名 ・ 氏 名	
連 絡 先 電 話 番 号	
Eメールアドレス	

【応募・問い合わせ先】

〒730-8511 広島市中区基町 10-52
 広島県商工労働局 働き方改革推進・働く女性応援課
 電話 082-513-3419 FAX 082-222-5521 Eメール syokaikaku@pref.hiroshima.lg.jp

メンバー
募集中!



子育てに優しい廿日市!

イクボス同盟ひろしま
IKUBOSS BOOK
 HATSUKAICHI



松本 誠会長

山田 秀紀会長

武田 博会長

渋谷 憲和会頭

松本 太郎市長

“イクボス”ってなに?

職場で共に働く部下・スタッフのワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の両立)を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司(経営者・管理職)のこと!

廿日市市長
松本 太郎

子育て世代に選ばれるまちを目指す本市において、新たに佐伯、大野、宮島の各商工会の会長が同時期にイクボス宣言されたことを、大変喜ばしく思います。働く誰もが、仕事も暮らしも充実したライフスタイルを実現するためには、企業経営者や管理職がイクボスとなり率先垂範することが重要です。私も令和3年3月に職員が生き生きと活躍できる職場を実現するとともに自らが率先して、充実した仕事をすると同時に家族との時間も大切に「イクボス」になることを宣言しました。少子高齢化や人口減少が加速化する現代社会において、人材の確保や社員の離職が企業にとって大きな課題となっています。また、共働きや介護、自身の疾病等により働く時間に制約のある従業員が増加することに併せ、短時間勤務や在宅勤務など働き方も多様化しています。仕事と家庭の両立が可能な就労環境は、こうした現状の克服に繋がるものと考えます。「はつかいち」が住みたいまち、働きたいまちとして選ばれるよう、この度のイクボス宣言を契機に市内の企業経営者にイクボスの輪が広がり、ワーク・ライフ・バランスの取組がより一層推進されることを期待しています。

廿日市商工会議所会頭
澁谷 憲和

廿日市商工会議所では、会員事業所の人材確保支援に積極的に取り組んでいます。地方の中小企業にとって人材不足は大きな課題となっています。新規雇用の各種支援と合わせて、定着率の向上も重要な課題と位置づけています。そのためには、働きやすい職場づくりが肝要であり、イクボス活動はそのひとつです。まずは私たち経営者が多様な価値観を持ち、従業員に気持ちよく働いてもらえる環境を整えることが定着率の向上に繋がります。

「イクボス宣言」は各自の事業や地域の発展に役立つことから、私も商工会の仲間に勧めたいと思います。「イクボス」という言葉は新しいですが、要は「思いやり」です。子どもや孫に接する時と同じように、ビジネスでも「思いやり」を大切にしたいですね。吉本 私は保育の現場で「子どもが急病になっても仕事が休めない」という保護者を見てきました。家族だけでなく、企業ぐるみ、そして地域全体で子育てをするような環境を、皆さんと一緒につくっていききたいと思います。「廿日市は住みやすい街」と実感できるよう、オール廿日市で「イクボスの輪」を広げましょう。よろしくお祈りします。

倒だと思っています。松本 確かにそうです。経営者は働きやすい環境を整備し続け、従業員は仲間と協力して業務の遂行に全力を尽くす。そんな双方向の取組が不可欠です。吉本 業務の効率化は働き方改革の柱。デジタル技術も活用しながら「誰かが休んでも事業が継続できる」「限られた時間の中で十二分な成果を出せる」そんな働き方を、経営者・管理職が率先していかなくてはいいけませんね。

オール廿日市で盛り上げる

「イクボス宣言」は、企業の採用活動にもプラスに働くといわれます。松本さんはどう考えていますか。松本 「働きやすい職場」だとアピールできるので、新卒・中途採用の両方で良い効果を期待しています。武田 私は「イクボス宣言」で、地域活性化にも貢献できるのではないかと考えています。過疎化が進む佐伯地区に、Uターン、

を言えば、コロナ禍を一致団結して乗り切った経験がプラスに働きました。従業員や家族の感染で、急に1週間以上休業する人が続出し、シフトを調整して船を運行した時期があったんです。誰もが「明日は自分が感染するかも」という厳しい状況を経験して、休んだ人をカバーするのは「お互いさま」になりました。育休は事前に予定が分かり、本人も周囲も準備ができるので、シフト調整はスムーズにできました。吉本 まさに「災い転じて福となす」。そういう温かい「お互いさま」の気持ちが、社会全体に広がるといいですね。

業務の効率化も不可欠

——武田さんと山田さんは、経営者としても、子育て・孫育てにおいても、私たちの先輩です。お二人のワーク・ライフ・バランスについて教えてください。武田 私は自営業なので、ある程度柔軟な働き方ができます。家族と協力して、子どもの送り迎えなど、できる限りのことをして

きたつもりです。山田 私も武田さんと同じです。仕事も子育ても地元密着で、学校の保護者会はもちろん、地域の活動にも積極的に参加してきました。自営業だと、比較的自由に時間が調整できますからね。吉本 ずいぶん前から「イクボス」を体現してきたのですね。お二人のように、男性も育児や介護、地域活動に参加するのが当たり前になれば、女性が活躍しやすい社会になると思います。武田 ひと昔前は長時間労働が当然でしたが、今は週休2日、定時退社が基本です。しかし「時間内に仕事が終わらず、困っている」という話も聞きます。成果主義が強まり、体は楽になっても、精神的な負担は増えているかもしれません。山田 サラリーマンでも子どもの学校行事に参加しやすくなったのは、とてもいいことだと思います。ただ、休暇や定時退社といった権利と、「結果を出す」という義務は表裏一体。経営者としては、事業が立ち行かなくなり、働く場がなくなるとは本末転

廿日市に「イクボス」の輪を広げよう！

イクボス座談会

2023年2月、まちの駅ADOA大野で、商工会会長3人による「イクボス宣言」署名式が実施されました。「仕事と生活を両立しやすい地域をつくるために、自分たちができること」をテーマに、活発な意見交換を行いました。



ビジネスでも「思いやり」を大切に

山田 秀紀

【大野町商工会 会長】
大野保険センター 代表



過疎化対策にも貢献したい

武田 博

【佐伯商工会 会長】
武田時計店 代表



労使が協力してよりよい職場に

松本 誠

【宮島町商工会 会長】
宮島松大汽船株式会社 常務取締役



地域ぐるみで子育てする廿日市に

吉本 卓生

【イクボス同盟ひろしま 廿日市部会 リーダー】
特定非営利活動法人キッズNPO 理事長